

10:21 主はモーセに仰せられた。「あなたの手を天に向けて差し伸べ、やみがエジプトの地の上来て、やみにさわれるほどにせよ。」

10:22 モーセが天に向けて手を差し伸ばしたとき、エジプト全土は三日間真っ暗やみとなった。

10:23 三日間、だれも互に見ることも、自分の場所から立つこともできなかった。しかしイスラエル人の住む所には光があった。

10:24 パロはモーセを呼び寄せて言った。

「行け。主に仕えよ。ただおまえたちの羊と牛は、とどめておけ。幼子はおまえたちといっしょに行ってもよい。」

10:25 モーセは言った。「あなた自身が私たちの手にいけにえと全焼のいけにえを与えて、私たちの神、主にささげさせなければなりません。」

10:26 私たちは家畜もいっしょに連れて行きます。ひづめ一つも残すことはできません。私たちは、私たちの神、主に仕えるためにその中から選ばなければなりません。しかも私たちは、あちらに行くまでは、どれをもって主に仕えなければならないかわからないのです。」

10:27 しかし、主はパロの心をかたくなにされた。パロは彼らを行かせようとはしなかった。

10:28 パロは彼に言った。「私のところから出て行け。私の顔を二度と見ないように気をつけろ。おまえが私の顔を見たら、その日に、おまえは死ななければならない。」

10:29 モーセは言った。「結構です。私はも

う二度とあなたの顔を見ません。」

エジプトでは太陽が神格化されて信仰の対象でしたが、その太陽の神にさばきが下されたことを思わせます。全く太陽が役に立たなくなったのです。このやみは「さわれるほど」と表現されます。おそらくこの地方特有の砂嵐であったと思われる。

こらはひどいときには全く視界がさえぎられ、互に見ることもできなくなるのです。当然さわれるほどに存在感のある闇です。しかしイスラエルの居住区では、地形や風の向きなどからでしょうが、その被害は小さく留められました。

パロはイスラエルを去らせると言いましたが、家畜はとどめておけと命じました。彼らの財産目当てです。権力者の欲がここに出ています。結果、彼の心はかたくなになりました。

このように人は神様の聖霊の助けがなければ、どこまで行ってもかたくななままです。人は初めから神を認めないことを決めていますから、何が起きてても、論破されても、さばきがあっても、恵みがあっても同じなのです。ですから私たちは神様に祈りましょう。救いには神様のあわれみを求めるしかないので。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

